

## 第13期第10回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和5年(2023年)9月26日(火)午前10時～正午  
場 所 国立市役所3階 第4会議室  
出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田副会長、北委員、北村委員、高麗委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)  
事務局 清水ごみ減量課長、吉村清掃係長、大倉環境センター所長、前田清掃係主任、菊次清掃係主任  
傍聴者 1名

### 【議事要旨】

#### 1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2022(令和4)年度実績)の行政による評価の(3)収集・運搬～(4)中間処理について事務局から説明した。

【山谷会長】議題に入る前に私のほうから情報提供をさせていただきます。前回、廃食油の回収について、回収場所が非常に行き届いている自治体もあるというようなことを申し上げたところ、北村委員から「回収量はどうか」というご意見が出ました。

聞き取りをしましたところ、東京23区で知り合いのところでは2か所、3,000リットル以上程度回収されており、回収量が結構多かったということでした。他にも資料が手に入るところで聞いてみましたところ、千葉県に国立市より1万人ぐらい人口は少ないところですが、地区センター8か所に回収場所を設けて、回収量が非常に多いところがあり、多い年度では3,200リットル程度、毎年で見ましても3,000リットル以上、毎年回収されているという自治体がありました。

つまり、回収場所をある程度充実させれば、国立市においても回収量を増やしていけると思います。もちろん、広報もきちんと充実させるということも併せて行っていただくということで、引き続き、この廃食油の回収事業を活性化することをお願いしたいと思います。

【山谷会長】(3)収集・運搬①効率的な収集体制の推進についてご意見をお願いします。振り返りますと、家庭ごみ有料化を西暦でいうと2017年から実施しています。それに合わせて収集システムを効率的なものに見直しをしました。収集回数は、可燃は週2回で変わらないですが、ほかのごみ品目について、大体週1回収していたところを2週間に1回に改めました。品目によってはEPR推進の観点から4週に1回にしたものもあります。例えば新聞は、販売店が回収し始めていたという時期でしたので、そういう民間ルートも利用してくださいという状況でした。昨年のこの審議会での委員のご意見として、隔週になってもそれほど不便は感じてないという方が多かったと思います。つまり、この見直しが、割とうまくいっているのではないかと思います。課題としては、もっと民間ルートであるリターンをもっと活発にできないかというようなことがあったと思います。いかがでしょ

うか。

【山岸委員】 シャンプーボトルの回収や使い捨てコンタクトレンズケースの回収はどのくらいの頻度で回収に回られているのでしょうか。

【事務局】 ごみ減量課職員が、2週に1回ぐらいの頻度で回収しております。

【山岸委員】 もう1点の質問は、置かれたことによって、周知がされて、そこに持っていく習慣ができてきたか。それとも、最初は来たけど、だんだん来なくなったとか、そのような傾向は何かありませんでしょうか。

【事務局】 ボトルのほうは、だんだん増えていく傾向にあります。コンタクトレンズのほうは、初めから少しずつ増えてはいますが、ある程度でそれ以上すごく増えているというのはありません。

【山谷会長】 コンタクト自体を実は利用しているという方が多いかと思いますが、その回収ボックスがあるということをまだご存知ない方が大部分ではないかと思います。

【山岸委員】 そうですね。

【山谷会長】 ですので、割と目立つところに、設置するとかの何か工夫が必要だと思います。他の市では、市役所の割と目立つところに置いてありました。

【山岸委員】 確かにそうですね。今9月末ぐらいまで国立駅の改札口に洋服のリサイクルの箱が置いてありまして、駅だとちょっと行くついでに置くことができるじゃないですか。もし移動することになっても、箱の存在が分かっているから、行くことができるので、最初存在を周知するためには、駅に置くのはすごくいいなと思いました。

【山谷会長】 広報の手法ですね。デモンストレーションとして、ずっと置いてもらうことができればいいですけども。

【山岸委員】 駅にちょっとだけでもあると、存在は分かるかなと思いました。

【山谷会長】 1か月置かせてもらうために、駅のほうに話をするのも一つですね。

【山谷会長】 審議会の評価としては、2017年の分別収集体制見直しの趣旨の一つとしてEPRの拡充があったかと思いますが、その趣旨も踏まえて、事業者との連携強化と市民への広報の充実を通じて、引き続きEPRの推進に努めていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】 (3) 収集・運搬②収集運搬による環境負荷の低減についてご意見をお願いします。

【楠田委員】 CNGを使った収集・運搬について、目標のところに低公害車100%を継続するとありますが、全ての収集トラックがCNGを使っているのか、それとも、例えば所有する車の50%はCNGだけど、その導入されている50%が100%稼働であるということなのか、どちらになりますでしょうか。もし所有する車が50%ということであれば、CNGの導入や低公害車の導入ということをこれから増やすという議論になるかと思いますが、あるいは、100%導入されているのであれば、今度は稼働率の問題になってくるかと思いますが、過去の数値からは変化がないので、現状維持をするという議論にしかないなと思いました。

【事務局】 天然ガスCNG車をごみ収集車に使うということで、導入している収集車が全て100%、この天然ガスCNG車であるということを目標としておりました。ただ、ロシアとウクライナの関係の世界情勢の影響など、天然ガスの流通がうまくいかなかったということがありまして、どうしても一時的にガス車の購入をしたというのが現状あります。

【山岸委員】 この数値は、2022年の数値はこの走行距離とか燃料使用量というのは低公害車のデ

一タで、それ以外の車を使った場合はこの中には入ってないと考えていいのでしょうか。

【事務局】市内17台の収集車が走っています。実は収集車は年々老朽化していきますので、買換えも含めて委託業者さんのほうで検討しているのですけれども、今回1台たまたま古くなった車の買換えが出ました。こうした状況の中で、CNG給油が可能な数少ないガソリンスタンド1店舗が閉鎖したこともあり、リスク回避をするということで、1台はガソリン車を発注しているということです。

【山岸委員】燃料使用量がちょっと減っているのは1台分、その軽油を使っているからと考えるとよさしいのでしょうか。

【事務局】使用している車両全てが入っているので、新しい車両も含めて入っています。

【山谷会長】審議会の評価としては、収集車の燃費改善により、運搬コストの削減につながり、また環境負荷の軽減にもつながったという点は評価できるということではないでしょうか。

【山谷会長】（3）収集・運搬③安全かつ安定的な収集体制の確保についてご意見をお願いします。

【楠田委員】残念なことに、令和4年7件の事故が発生したわけですが、令和2年度が5件、令和3年度が6件で、増加傾向にあって、これはゆゆしき事態と考えています。ただ、それは時間軸で捉えたときにそうやって増加しているので問題だと申し上げておりますが、例えば資料の取り方として、ごみの集積場の数が右肩上がりですごく増加していますので、それに伴って事故というのが増加しているのか、走行距離数が増えているから事故が増えているのか、そういったことが、時間だけでは分からない点があります。もう1点が、事故の事案ごとに少しカテゴライズして、どういう場面が多いのかという傾向が分からないので、もう少し精査された上で、何らかの場所あるいは、特定の作業中のときには多くなっているということであれば、そこを集中的に、安全を保つために注意喚起を一層していただくことが可能かと思っておりますので、きめ細やかな分析とその対策方法をやっていただきたいと考えております。

【事務局】ご指摘はごもっともだと思っております、この安全第一ということは委託業者さんと毎日頃意見交換して、周知徹底をお願いしています。ただ、道路は、地域によってはすごく狭い道もありましたり、人通りが多かったりとか、いろいろな状況がございます。事故とかが起きた場合は、必ず市のほうに速やかにご報告を上げていただくようにしています。最初は口頭ベースですが、その後しっかりと書類を提出していただいて確認をしているということがございます。それに基づいて、再発防止ということで、注意徹底を委託業者さんとしっかりとやっていきたいと思っております。

【山岸委員】2022年の7件の事故というのは、市民が知る手段は何かありますか。例えば、この議事録はホームページにアップされると思いますが、そこまでは見にいかななくても、広報、市報とかで、「こういう事故がありました」「集積所が増えています」「事故が多いです」「皆さん気をつけてください」というのを啓発することと、集積所が多くて便利になって、その代わり事故が増えているのであれば、みんなで考えなくてはいけないことかと思いました。

【北村委員】国立は木がすごく、塀の上から出ていたりするので、宅急便のトラックも通るのが困ってたりします。ですので、事故が起きていますよ、ということだけではなくて、自宅の樹木をきちんと整備してくださいと、お互い気を付けましょう、ということをしたら良いと思いました。

【山岸委員】私は子供を連れて幼稚園行きますが、ごみ収集車が通るとやっぱり怖いと思います。子供にはあれには近づかないって言っていますが、それを言ってしまうと良いのかなという思いもあります。急がせているのが市民で、全部回収しなかったら怒るということもあると思っております。

【山谷会長】一定の時間内に収集を終えなきゃいけない、その中で収集ポイントが増えているということですので、急いでいることは確かです。

【山岸委員】急いでいますね。だって、ごみを取ってくれないと、カラスが来て、苦情が来ると思います。どっちでも苦情来るけど、でも今ここでこういう問題が出ていてということは、どこかで開示していく必要があると思います。

【山谷会長】あと重要なところとして、計画内容にある、スプレー缶やライター、バッテリー等の問題、小型充電式電池の混入の問題、このあたり非常に重要な問題になってきていると思います。中学生や高校生で、携帯扇風機は物すごく普及して、携帯電話と並んで必需品になっているようです。これがこれからどんどん不燃ごみなんかに出てくるおそれがあると思いますので、やっぱり注意していかないといけないところですね。

【山谷会長】審議会の評価としては、収集箇所が増加する状況の下で収集業者の業務の安全性確保について周知徹底してほしいということと、携帯扇風機など新たな使用製品、使用機器の普及を踏まえ、充電式電池、使用製品については、適正な分別排出の周知徹底の広報をしていただきたいということでしょうか。

【山谷会長】（3）収集・運搬④戸建住宅における収集方式の柔軟な対応についてご意見をお願いします。多摩26市はいずれも有料化していますが、戸別収集方式を導入してないのは、実は国立市だけです。原則として戸別収集にしているのですが、この集積所方式の下でできるだけ地区の要望を聞きながら柔軟に戸別収集に切り替えてきて、この集積所数が現在、1万以上になっているという状況です。当時は、議会から戸別収集はお金かかるという意見が出てきまして、それでごみは減るのかということをおっしゃっていました。しかし、戸別収集というのは、ごみを減らすというのが目的ではなくて、適正な排出をきちんとしていただくというのが狙いということを伝えていました。私の経験では、戸別収集反対派の意見というのは、自治会等でごみの管理をしており、住民同士のコミュニティや関係を維持できるし、何が問題なのかという意見がございました。

【北村委員】地域のコミュニティとかを考えると、そういうところで顔を合わせて、お互いにまちをきれいにしようとか、そういう意識がやっぱり戸別じゃないほうができるものではないかなという気はします。

【山谷会長】そのとおりですが、ただ、この高齢化の時代の先を考えるとやはり戸別のほうが良いですね。それぞれのお宅の状況に対応しやすく、特に高齢者はごみ出し非常に困難で、その予備軍の方も随分多いです。そういう方にとって重いごみを出すって物すごく大変なことで、特にエレベーターのない集合住宅の場合は、非常に大変です。そういうことも考えると、戸別収集という対応が1つかと思います。国立市の場合、地区担当の職員さんを中心に住民意向をくみ上げ、場合によって集積所をばらして戸別収集に切り替えるというようなことをおやりになって、恐らくその仕事って物すごく大変だろうと思います。でも、今のところ外目から見ましても、割と円滑にやっているのではないかと思います。不適正排出の状況はいかがでしょうか。やはり問題としてはありますか。

【事務局】そうですね。北村委員がおっしゃったとおり、地域コミュニティの希薄や、ごみ集積所を掃除する人がもういないという意見があって、仕方なく戸別収集週に踏み切るところがあります。不適正排出というところかというと、共同のごみ集積所を使っていると、出した方が分からないということがありますが、戸別収集にすると出した方の責任が明確になるので、我々も違反者に対して指導し

やすいところがあるので、良い悪い両面あると思っております。

【山谷会長】問題は多摩26市全体について言えますが、集合住宅の場合です。集合住宅で戸別にするのはちょっと難しいと思いますので、そのところの排出マナーはどこもよくないです。特に賃貸集合住宅の場合は長く住まないで、排出の仕方のマナーをよくご存知ない人が入居されて、少なくとも初めは乱れた排出がなかなかなくなるといような状況はあります。

【田中委員】転入で国立市に越してきたときは、国立市のごみの捨て方はこうだ、というのを市民になられた人に十分に説明をやっていただかないと、団地ではごみの掃除もひどくなります。お勤めの方も多いので、ネットに捨てて、帰った時には掃除がされているので、きれいな状態なわけです。ごみの捨て方は説明しますが、自治会に入らない方もいるので、やはり市に転入された時に、国立市のごみの捨て方を十分にやっていただければと思います。

【山谷会長】そうですね。

【田中委員】あと一つは、スプレー缶ですが、お風呂場で耳の遠い方が自分で空気を抜いていて、爆発したことがありました。

【山谷会長】ごみの出し方には自分で穴開けはしないでくださいとあります。

【田中委員】たまたまその方が団地での交流もないことで起きてしまいました。そういった点も戸別収集に関しても、十分に説明していただきたいと思いました。

【山谷会長】集合住宅の場合は、特に自治会がきちんと、ごみの管理をしていただく、あるいは入居者をお願いしていただくということは非常に重要です。ある市では、1か月程度、排出マナーの悪い団地の住民の方々に部屋番号を書いてもらうということをしたことで、随分、排出マナーがよくなったらしいです。自分が出すごみに責任を持ってもらうということで、全ては難しいと思いますが、そういった事例もございます。

審議会の評価としては、地域担当職員制度が住民意向を受け止められる制度として採用されたことで、概ね円滑に機能しているように見えるということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（3）収集・運搬⑤ごみ出し困難者への支援の検討についてご意見をお願いします。実績を見ると、年々増えています。介護に携わられている方を經由して申請をされるというケースが多いわけですが、受け付けられた場合の収集の方法というのはどういう形でしょうか。民間委託でしょうか。

【事務局】収集は普段、日常で収集している収集業者と一緒にです。

【山谷会長】収集の仕方ですが、例えば団地だとすると、バケツにでも入れて、ドアの外に出してもらっているのでしょうか。

【事務局】基本的には階段の下に出してもらうことが多いです。

【山谷会長】それは1階、2階の人はいいとして、例えば4階、5階の人が下まで持っていくことはそもそも大変じゃないでしょうか。

【事務局】そういったケースは、私の把握している限りでは起きてはなくて、基本的にはヘルパーさんに入っているから、ヘルパーさんが出せる週2回のタイミングとかで出すというのが基本です。ヘルパーさんとかもいなくて、足が悪くてもう門の外まで出すのが難しいというケースの方には、例えば玄関の本当に前まで収集作業員がドアを開けて取るというケースもあります。

【山谷会長】今のところは対応できていることでは良いですが、対象の方が、この先増えてきた場合、

日常の収集業務に支障が及ぶという、そういう事態が出てくると思います。そうすると、市の職員が車で出かけて行って、ピックアップするなんていうところもあるかと思います。

審議会の評価としては、福祉の部署との連携を密にして対象者のニーズを的確に受け止め、支援体制の充実を図っていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（3）収集・運搬⑥新型コロナウイルス等の感染症への対策についてご意見をお願いします。

【高麗委員】コロナも5類になって、インフルエンザもはやり始めて、また皆さんもマスクしているかと思いますが、委託業者でうちに搬入がある会社も、マスクをしていない人が多いですが、接触する方が車に乗っていることがほとんどなので、対策は主に取っておらず、個人で要望をしてやっている状況です。

【山谷会長】市のホームページを見ましたが、環境省のほうの周知ポスターみたいなのがありまして、そこにたどり着けるようになっておりましたので、それなりの周知ができるようになっていました。

審議会の評価としては、新型コロナウイルスの感染症が、なかなか収束の状況にはならず、長期化しそうであることを踏まえ、万全の対策を講じた上で、ごみの収集処理をしていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（4）中間処理①適正な中間処理と安定的な管理運営についてご意見をお願いします。実績を見ますと、クリーンセンター多摩川でタービンを更新したということで、随分発電量が増えていきますので、これは非常にうまくいったなという感じします。

【山岸委員】環境センター稼働状況の2021年と2022年と全く同じ資源化量というのは、偶然でしょうか。

【事務局】4,582と4,528なので、異なります。

【山谷会長】審議会の評価としては、クリーンセンター多摩川の管理運営について、タービン更新により発電量が大幅に増加したことは評価できる。今後も、適時適切な施設運用に努めていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（4）中間処理②再資源化の推進についてご意見をお願いします。再資源化というと、特に環境センターが関係すると思いますが、最近、市では民間の事業者と連携して、ペットボトルの水平リサイクルの取り組み、先ほど出てきたコンタクトレンズケースの回収・資源化、ジモティーではリユースの取り組みなど、いろいろな民間事業者の技術・ノウハウを活用するという姿勢が非常に積極化しており、このことは非常に良いことだと思います。

【北委員】再資源化のところでペットボトルを、サントリーさんと連携していくということは、まず素晴らしいと思います。それ以外で、マイクロプラスチックが問題になっている中で、包装材とかをもっとリサイクルにするという観点で、国立市の場合は青い袋で排出していますが、そこが個人的に国立市民として、まだまだ本当にこのプラスチックは、この袋に入れてもいいのかなど、結構迷うことがあります。それが結果的にうまく分別されずに黄色の袋に入れられるケースも多いのではないかと考えているので、ごみカレンダーをもう少し分かりやすくしていったほうが良いのではないかと考えます。何かそういうお考えはありますか。

【事務局】プラスチックの分別排出というところに関しましては、ごみのカレンダーに関しては少しずつ、良くしていこうと改良している部分はありますが、全面的に押し出した内容というのではありません。ただ、前回の市報特集号のほうでも、容器包装プラスチックの分別排出に関しては、やはり重要な点なので記事として載せさせていただいているので、日頃の毎月2回ある市報もそうですけども、そういったところでカレンダーにかかわらず広報の強化、継続はしていく必要があるなと感じております。

【北委員】そうですね。国立市への転入や転出で、常に人が出入りしていると思いますので、市報などで定期的に周知、広報をしていただけるといいのかなと思います。

【山谷会長】プラスチック資源循環促進法では、地方自治体の役割として、これまで容器包装プラスチックの資源化に取り組んできたわけですが、製品プラスチックについても資源化、一括回収をして資源化するという国として希望しているようです。これへの対応というのは市としては、いかがでしょうか。

【事務局】製品プラスチックの回収について、まず、そもそも国立市の場合、製品プラスチックは不燃ごみで入れていただいております。かつて、有料化前までは製品プラスチックという収集品目もありました。有料化のときに不燃ごみに統合させていただきましたけども、実際不燃ごみとして回収した後も環境センターで選別を行っていきまして、プラスチックにできるものはリサイクルのほうに回しております。民間ルートを活用したリサイクルという形はとれていると考えています。あとは一括回収の部分についてです。容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括で回収するというやり方ができるように制度上はなりました。実際、容器包装リサイクル協会さんがその処理ができるようにはなっていますが、実際のところ、製品プラスチックと容器包装プラスチック、これを一緒にベールという圧縮して搬出するということが、うちの機械で耐えられるのかですとか、いろいろ課題はあるところです。各市もまだそれぞれ検討段階のようでした、国立市としても各市の動向を踏まえつつ、検討していこうと考えているところであります。

【山谷会長】国立市は非常に先進的にプラスチックの容器包装と製品のほうの両方ともリサイクルに取り組んできたわけですね。その独自ルートでリサイクルをやってきたわけですが、この法律への対応ということは引き続き、検討課題ということですね。一括収集を法律で打ち出しているの、それが絶対にいいのかという、他自治体の話なども聞いてみると、信頼度という面で疑問を持っている自治体もあります。つまり、製品も収集してリサイクルをすることで、その処理施設のほうは大丈夫なのかということです。容リ協会に持っていったけど処理能力なくてお返ししますと言われるリスクもあるようです。なので、独自処理をしているところは引き続き独自処理をしていきたいという考え方のところもありますので、慎重にこのところは見極める必要があるということではないでしょうか。ただ、そういう施設が整備されることは間違いのないわけですので、そういう段階で改めてこの問題は検討する必要があると思います。

【山崎委員】今後の国立市のプラスチックごみの組成の調査なんていうのは、予定はありますでしょうか。今後、国の流れとしてはプラスチックをリサイクルしていくという方向性がかなり膨らんでいっている中で、ポリプロピレンとかポリスチレンとかの組成が分かっていないとなかなかリサイクルができないということがあるかと思えます。

【事務局】組成分析について、今は可燃ごみと不燃ごみとプラスチック類という形では実施しております、ただその中で、より素材というところの分析をしたほうが今後の資源化にもつなげやすいと

いうご意見だったと認識しました。現状はそこまでの細かい分析はできてはおりません。今後については、検討していく必要があると感じました。

【山谷会長】容器包装プラスチックについて、これは地方自治体が選別、圧縮、梱包、保管をして、そして容リ協会のほうに持っていき、容リ協会が競争入札で、どこにリサイクルするかということを持っていく形です。持っていった先で、また同じような選別作業をやっています。そして、それを終えて、ポリエチレン、ポリプロピレンとかいろいろありますが、一応この比重差選別機にかけて、分けています。

【山岸委員】圧縮したものを、また分けているのでしょうか。

【山谷会長】きちんとは、比重差選別機では分けることできません。あらあらで比重の差を利用して分けてはいますが、もうちょっと技術進歩によってきちんと分けることができれば、今よりずっといい製品、再商品化することができると思います。今現状はそこまではできていなくて、あまり付加価値のないプラスチック製品しか作れないような状況です。ただ、私が今言ったのは家庭系のプラになります。事業系のプラとなると、山崎委員のおっしゃるように、PE、PPというような形でかなりきちんと分けることができますし、また排出の状況もそのような状況でもう品質が分かっているという形で大量に出てきますので、きちんとしたマテリアルリサイクルが行われているという状況じゃないかなと思います。

審議会の評価としては、高度なりサイクル技術を有する民間事業者と連携して、付加価値の高いリサイクル製品を生み出していく取り組みというのは評価できる、また、プラスチック資源循環法への対応について、引き続き調査研究に努めていただきたいということでしょうか。

【山岸委員】1点追加で、願望を言ってよろしいでしょうか。ごみカレンダーの裏に、例えば、「かばんは可燃ごみ」とか書いてあると思いますが、その部分をひもでくくってかけているので、それを見ようと思ったら、1回取り外してひもを取ってやらなきゃいけないので、なかなか面倒くさいです。なので、インターネットで「かばん」とか入れたら、簡単に確認できるものがもう一つぐらいあったらすごくうれしいなと思いました。

【山谷会長】ITメディアなんかも利用して、もうちょっとアクセスしやすくするというのも課題ですね。これも3つ目で審議会の評価として、入れることとします。

【山谷会長】（4）中間処理③中間処理施設の延命化についてご意見をお願いします。

【北委員】延命化ということで設備の能力が維持されるというのはすごく良いことだと思いますが、ぜひ何か現代らしく、IT化とかビジュアル的なところは、延命に合わせて発展させていったらどうかなというのが、提案です。たまたま先月、武蔵野クリーンセンターを見学する機会がありました。タッチパネルで現在の焼却の状況とか発電の状況とか中の状況が見えるようになっていたりですとか、誰でも申し込みなしに、勝手に入れて、見て、帰って、みたいなことができる、かなりオープンな場だったので、なかなかそこにすぐに近づけることはできないと思いますが、延命化と合わせて、そういった見せるというようなところは発展させてもいいのかなと思いました。

【山谷会長】ごみ焼却施設をもっと市民に近い存在にするということは非常に重要だと思います。ただ、この前行ってもうご存知のとおり、多摩川のほとりにあって、そこまで一般の市民がアクセスするなんて、とてもとてもという感じでしたね。

【山岸委員】でもやっぱり見学に行ったら、すごいなと思いました。皆さんが非常に選別されている

ので、見るのと見ないのとでは全然、ごみの出し方が変わってくるかと思います。

【山谷会長】そういう意味では市のほうで、希望をされる市民の方に見学会の機会を提供するというようなことが非常に重要なかと思えます。

審議会の評価としては、中間処理施設の延命化について、経年劣化に適切に対応し、安定的な管理運営に引き続き努めていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（４）中間処理④処理困難物、感染性廃棄物等の適正処理の促進についてご意見をお願いします。多摩川衛生組合でも説明を受けましたが、クリーンセンターでは、これまで事故が何回か起きており、小型家電を不燃ごみで排出する自治体で起きているようです。国立市では大きな事故は収集車両からというのはゼロで、環境センターでもゼロ、クリーンセンター多摩川の国立市原因ということもないようですので、大きな事故というのは今まで回避をして運用できているということだと思います。その点の評価というのはしておいたほうが良いと思いますね。

審議会の評価としては、リチウムイオン電池類と主要製品の分別については、引き続き啓発に注力していただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】（４）中間処理⑤非常時における相互支援についてご意見をお願いします。災害廃棄物対策、非常事態対応ということから、災害廃棄物処理計画を策定されて、これを基に平時から備えていくべき事項として市民への啓発を目的としたワークショップを開催したということは評価すべきことじゃないかと思えます。災害廃棄物処理計画をいろいろな自治体は取りまとめているのですが、その先がどうも見えてこないです。特に市民への啓発ということでは、ハンドブック、すごく良いと思えます。ほかの自治体つくってないです。ワークショップとかの取り組みの姿勢が非常に積極的で、啓発に非常に力を入れているというこのことは言えると思えます。

【山岸委員】この市民ワークショップは9名の市民にご参加いただきとありますが、何名募集だったのででしょうか。

【事務局】枠としては、18名取っていました。

【山岸委員】市民ワークショップも何か行きたくなるような楽しい仕組みがあって、行ったら学べちゃった、みたいなほうが良いかなと思えました。子供と一緒にいけるイベントだったり、夏休みの研究にできるみたい理由を餌にするのも良いかと思えました。

【山谷会長】国立市の災害廃棄物処理計画は、仮置場を割と明確にしているのが特に良いと思えます。例示を挙げている計画というのは、あまりないです。

審議会の評価としては、災害廃棄物対策、処理対策としてハンドブックの作成と市民ワークショップの開催など、市民啓発に積極的に取り組む姿勢は評価したいということではいかがでしょうか。

## 2. 多摩地域ごみ実態調査 2022年（令和4）年度統計について

資料に基づき、多摩地域ごみ実態調査 2022年（令和4）年度統計について、一部抜粋して、事務局から説明した。

【山谷会長】可燃ごみの比率が、小金井、国分寺、非常に少なくなっており、徹底的にリサイクルし

よう、そうせざるを得ないような状況です。焼却施設がないとか、もう焼却施設を閉鎖しなきゃならない、代替地がない、というような状況に追い込まれていたわけです。日野市の清掃工場も立て替えの際に、一部事務組合に参加をすることで、持っていくごみを減らさなければならないということに追い込まれた状況でした。その結果、この3市は多摩地域でもすごくごみか減っていることなのではないかと思います。

### 3. その他

#### (1) 日程について

第12回は令和5年1月下旬に実施することとした。

— 了 —